

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270604152		
法人名	有限会社 グループホーム せいゆう荘		
事業所名	有限会社 グループホーム せいゆう荘	ユニット名	1号棟
所在地	長崎県五島市上崎山町430-1		
自己評価作成日	2021年9月16日	評価結果市町村受理日	2021年11月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_prof_topiigvosyo_index=true">https://www.kaijokensaku.mhw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_prof_topiigvosyo_index=true</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2021年10月6日	評価確定日	2021年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、正面が海に面しており潮風を浴び、後方には福江島のシンボル鬼岳、側面には御岳を見上げ、自然豊かな環境の下で、利用者様はそれぞれの身体機能に応じた日常生活を送っております。また、四季折々の野菜や花の苗を利用者様、職員、地域の方々と一緒に植え、トマトや芋、ジャガイモ等の収穫を楽しみながら、綺麗な花に癒された日々を過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームせいゆう荘”は2つのユニットがある。1つのユニットのリビングに「幸福の木」があり、2021年度は花を咲かせることができた。老人会の方から花の苗をいただき、個人毎のプランターに植えており、ご利用者も花の水やりや野菜の水やり、草取り等をして下さる。季節の花々や鯉のぼり、七夕、クリスマス等の行事を行い、季節感を味わって頂いており、ご利用者の笑顔を引き出し、穏やかな生活ができるように努めている。2002年に開設したホームであり、「高齢者が地元(五島市)で生活できる場所を作りたい」と言う社長の思いが込められている。職員の入れ替わりも経験している中、2020年から勤務している新施設長を中心にホームの立て直しを続けており、管理者、介護支援専門員、主任、職員全員で結束し、日々のケアを続けている。今後も認知症ケア等の研修の機会を増やし、マニュアルの更新も行い、職員の更なるスキルアップに繋げていく予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 !該当するものに○印	項目	取り組みの成果 !該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個々に合わせたケアを行いその結果、理念に繋がる様に努めている。	理念の中に「必要とされることの喜びと、感謝の気持ちで介護をおこないます」という表現があり、ご利用者の役割作りを大切にされている。“お互いに癒し癒されその人らしく穏やかに”を目標にしており、「お互いに」の中には「地域の方も一緒に」という視点も含まれている。ご利用者の生活歴を把握し、「その人らしく」過ごせるように努めており、ご利用者から「ありがとう」と言って頂ける事も多く、職員の癒しになっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には可能な限り参加、協力している。施設の行事も地域の方には参加してもらいたい、コロナ禍の影響で外部の者は案内していない状況です。	コロナ前は地域の草刈り等に参加したり、老人クラブの方と花の苗植えも行われていた。ホームが夕焼けマラソンの給水地点であり、横断幕を作り、参加者の応援を行い、ホームの駐車場で“ちゃんこ”や“炎上太古”を見学したり、保育園児との交流を楽しまれていた。コロナ収束後は、地域交流を再開し、地域の方とカラオケ等を楽しみたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実績無し		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会合が難しく、情報や意見が得れない。	コロナ禍は書面会議が行われており、会議メンバーの方々に文書を直接持って行き、世間話の中で色々な情報提供を頂いている。ホームの取り組みや避難訓練の報告と共に、ホームの課題も報告し、アドバイスを頂いている。	今後もご利用者や家族と共に、地域の方の参加を増やしていきたいと考えている。ホームの運営や取組みを外部の方に理解して頂き、課題などに関する更なるご意見を頂く予定である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	提出書類の届出や各種の相談等、指導を頂いている。	施設長等が本庁を訪問し、コロナ対策の相談や事故報告、ホーム内で起きた事案等の相談を行っている。市の担当者から指導を頂き、日々のケアで活かすように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望や徘徊等により見守りが不十分などき等がある。玄関を除き窓等は施錠状態である。	身体拘束廃止委員会と虐待防止委員会を開き、日々のケアの振り返りを行っている。全職員参加でホーム内で発生した事案に関し、緊急議題として協議を行うと共に、身体拘束等適正化のための指針を見直し、各棟のチェックリストも作成し、振り返りに使用している。	

7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の主任会議やケア会議時に虐待防止の認識を行う。しかし、6月に2号棟で問題が発生した。		
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、2号棟で1名の利用がある。また、新規で1名相談するも、対象外となった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に詳しく説明している。その他疑問とか有ればその都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等からの意見・要望があればその都度、主任会議等を開き改善策などの協議をする。	コロナ禍、面会ができない時期もあり、電話で情報交換を行ってきた。毎月のお便りに担当職員が状況報告し、写真や金銭出納帳のコピーを郵送したり、遠方の家族には手紙を書いており、ホーム内で起きた事も主任から真摯に報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催の主任会議・ケア会議時に意見等を聞いている。	2020年度から新体制になっており、新施設長、新管理者、介護支援専門員、主任等が中心になり、職員同士の結束を強めてこられた。代表も会議に出席しており、職員の頑張りを高く評価している。職員の意見やアイデアを伝えやすい環境を作ると共に、適宜ユニット間の職員の異動も行われている。	今後も法人内での研修会を定期的に行い、更なるスキルアップに繋げると共に、マニュアルを更新し、各種委員会活動も行っていきたいと考えている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が働き甲斐のある職場環境の整備に努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の影響によりオンラインでの研修が多くなり、参加しにくい。法人内での研修会を定期的に行いたい。(おしめの着け方を実施済み、今後虐待防止の研修会を予定している。)		

14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域におけるグループホーム協議会の加入交流の実績なし。		
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に、面談や情報収集に努め、必要としているサービスを提供している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅介護の状況等を基に家族が望まれるサービスを提供できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活で出来ること、出来ない事の見極めを行い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何でも介護職員が介助するのではなく、その方の能力に応じた介護という意味で出来ることは本人に行ってもらおう。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子については、毎月発行のお便りで、概略伝えているが、遠方の家族へは、ケアプラン更新時等に手紙を添えたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きたい場所等があれば、家族と連携して要望をかなえるようにしている。	ご利用者の生活歴や信仰を把握している。通院時に馴染みの場所をドライブしたり、天気の良い日に遠出をして、ご利用者の自宅付近をドライブしながら、自宅周囲の状況を伝えたりしている。コロナ以前は家族と一緒に友達の家に行かれたり、お墓参りに行かれる方もおられた。	

21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに来ることを手伝いながら関係を深めてもらう。対立する方には職員がクッションとなるなど、無駄に対応をしないよう、見守りをしている。		
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	挨拶、声かけを通じ、現状を把握している。時には施設を訪問する家族も居る。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意思で入居される方は少なく、いつまでも帰宅願望が強い。気を紛らわせるようにちょっとした手伝いをしてもらったり、ゲームをしたりしている。	団樂時や入浴時に思いを把握するように努めている。ご本人の真の思いに寄り添い、ホームでできる支援(寄り添い)を続けている。意思疎通が難しい方は表情や言動から思いを察している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅で過ごしていたような生活環境になるように努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調変化や言葉の変化は常に記録し、ケア会議時に状況の把握等全職員が情報共有できる様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	問題点は、ケア会議で話し合い、個々の利用者に応じたケアを統一出来るようにしている。	趣味や活動、信仰等を把握し、洗礼名等も記録できるようにしている。“できる事・できない事・ケアのポイント”を記載した3表(日課表)等も作成し、ケア会議で情報交換しており、健康管理やリハビリの視点も盛り込まれている。	①今後もアセスメントシートの中に「寝返り」「起き上がり」等のADLの能力を増やしていく予定である。 ②計画の更新時、家族への説明と同意が間に合うように努めていく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録と業務日誌、及び申し送りノートで、伝達等は伝えている。		

28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に対応できるよう、支援することを心掛けている。		
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	得意とする知識や経験を発揮できる環境づくりを行い、少しでも役に立っているという、満足感を感じてもらおう。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほぼ職員が対応している。	コロナ禍の通院介助であり、看護師や介護職員と共に施設長も同行することがある。受診時に同席される家族もおられるが、同席できない家族には毎月のお便りや面会時に報告している。昼間の早期発見・早期対応を心がけており、24時間体制でホームの看護師に相談でき、職員の安心になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が在籍しており、日々の気づきや変化は常に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設の状況等を理解して頂き、本人の経過を電話で伝えてくれたり、退院時の調整も行ってくれる。また、家族にもその都度伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階で確認している。看取りに関しては、行っていないので、施設で行える限度の説明のみである。	入居時に「看取りケアを行っていない」事を伝えている。「最期は病院で」「できるだけホームで」等の願いも聞かれ、ホームでできる事を説明している。看護師が勤務し、24時間の相談ができ、体調変化時は病院に電話し、主治医からの指示を頂いている。病状に応じて、医療機関への入院時期等も検討しており、転院ギリギリまで誠心誠意のケアを続けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には、実施してない。		

35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	地域の消防団との災害時の避難については、話しているが、訓練等は実施していない。火災・防火については自己チェックは毎日行っている。	厚労省のBCP動画も勉強しており、今後も計画作成を行う予定である。ホーム裏に畑があり、ハザードマップ上、水害により土砂が流れ込む心配はある。気象情報を事前に確認し、早めの対応を行うようにしている。災害時は地域の総代から消防分団長に連絡が行くようになっており、今後も消防分団長に挨拶を行う予定である。長期保存できる食料を3日間程度備蓄し、ご利用者毎のリュック(館など)も準備している。	
自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや言葉使いは常に意識している。	ご利用者への声かけの大きさや言葉遣い等、気になる時は管理者、ケアマネ、主任から職員に伝えていく。人生の先輩として敬意を持ちで声かけするように努めており、個人情報の管理も徹底している。ご利用者の呼び方は名字にしており、「さん付け」をするように心がけている。	今後も引き続き、方言の使い方や口調を含め、職員個々の言動の振り返りを行い、更なるケアの質の向上に努めていく予定である。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方が少ない中で、なるべく選択しやすい言葉かけを心掛けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で優先してしまう事があるが、出来るだけ希望に沿うように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族が遠方の方は、洋服等も購入している。日々の洋服についても着易さを優先している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の前準備等手伝ってくれる方には、出来るだけ手伝ってもらっているが、配膳や後片付けは危ないので、行っていない。	畑のきゅうりやトマト等の新鮮な野菜を収穫し、美味しい料理が作られている。庭先のツワを探り、ご利用者がツワの皮むきをして下さる。ピーラーでじゃが芋の皮むきをしたり、モヤシの根切りをして下さり、誕生日や行事の時は食べたい物を聞き、寿司や天婦羅などを楽しませている。嚥下状況に応じてトミをつけており、トミの固さも個別に調整している。食事の姿勢を含めてアセスメントに記載している。	

41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の好みで食事を提供出来るように心掛けている。居室では自由に吸水出来るようにペットボトルに入れて各自準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、声掛けして対応している。		
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛け誘導はしているが、理解できないためオムツ使用が増えている。排泄チェック表を活用して、声掛け誘導している。	失禁状況に応じて布の下着にパットを使用する方もおられ、パットの必要性や大きさの選定等を個別に行っている。排泄感覚に応じて事前誘導しており、パットの使用が減り、良眠できるようになった方や、退院後にオムツから紙パンツに変更できた方もおられる。病院の看護師が訪問して下さり、「オムツの着け方」の研修をして下さり、その後の成果も見られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らず飲み物や食べ物で調整できるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合による事が多い。	入浴好きな方が多く、ご利用者が興味のある会話をしながら入浴の声掛けを行い、誘導している。湯船に浸かれるように支援しており、湯加減なども確認しながら職員との会話を楽しまれている。ご自分でできる所(洗髪も含め)は洗って頂き、冬場は身体を冷やさないようにシャワーで掛け湯をしている。陰部にはタオルを掛けて羞恥心に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体機能に合わせてベッドや布団、低反発マット等を使い分けている。また、寝具の乾燥(天日干し)や室温調整等も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理は施設が行い、用法・用量は意思の指示に基づき服用してもらっている。薬によっては、長期間服用していて状態の報告を行い、医師の指示の基、調整を行っている。		



48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役に立ちたいとの気持ちが伝わるので、簡単な手伝いはしてもらっているが、時にはさせられているとの思いに変わる時もあり、職員も一緒に行うようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は出来ないが、日頃の会話から行きたい所や買い物等聴きだして、なるべく外出するようにしている。また、時には家族に協力してもらう時もある。	海を眺めながら日向ぼっこをしたり、ホーム周辺の散歩を楽しまれている。車いす対応の車でドライブや花見(桜、秋桜、向日葵、紫陽花など)に行かされている。ユニット毎の外出もしており、あぶんげ公園、香珠子海水浴場、魚津ヶ崎公園、箕岳、荒川温泉での足湯をすることもできた。コナ前は喫茶店でコーヒーを楽しまれたり、受診の帰りに買物に行き、ジョイフルで食事を楽しまれていた。	コロナ禍で以前よりドライブが減ってきている。これからも利用者の馴染みの場所を巡ったり、車の窓を開けてドライブを楽しまれていく予定である。
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理は施設で行っている。病院費、薬代、嗜好品、オムツ等は必要時に購入、また、高額になる物は家族に相談してその都度購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎは行っているが、利用者本人からの電話や手紙はなかなか難しいものがある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時期折々の花々や、こいのぼり、七夕、クリスマス等の行事への参加で、季節感を味わっています。また、毎朝ラジオ体操を実施し、心身ともに気分転換を行っています。	老人会の方から花の苗をいただき、個人毎のプランターに植えている。ご利用者も花の水やりや野菜の水やり、草取り等をして下さる。玄関を入るとリビングと畳のコーナーが広がり、台所も隣接している。料理の音や香りを感じながら過ごされており、洗濯物をたたまれたり、掃除をして下さる方もおられる。1つのユニットでは廊下のソファーに座り、海を眺める方もおられ、テーブルで新聞を読まれたり、替え歌を唄われている。温湿度調整を行い、換気もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに寝そべったり、座ったりしながら、利用者同士で過ごしている。一人になりたい方は自室で過ごしています。		

54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れたものを出来るだけ置く様になっているが、安全面等を考慮し置けるものが限られています。</p>	<p>和室と洋室がある。ご自分で布団の上げ下げをされる方もおられ、身体機能に合わせ低反発マットを使用している。寝具の乾燥(天日干し)や室温調整等も行っている。家族の写真や遺影、仏壇等と共に、天皇家族の写真や敬老会の時の写真、折り紙で作った物などを飾られている。居室からキンカンの実や野菜が育つ畑などを眺める事ができる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>それぞれに合った居室環境を心掛けている。共用空間でも、見守りのなで声掛け・誘導等しながら自立した生活が出来るように心掛けている。</p>		